

ニュースレター newsletter

ニースレター

第5巻第1号



ドナーホットライン 047-324-1010 (24 時間対応)

東京歯科大学市川総合病院
角膜センター
〒272-8513
千葉県市川市菅野5丁目11-13
TEL: 047-324-5800
FAX: 047-324-8590
<http://www.eyebank.or.jp>



イイノホール&カンファレンスセンター



児童劇団「大きな夢」様



ラン・フォー・ビジョン®

第17回 ドナーファミリーの集い[®] ラン・フォー・ビジョン



次回、2015年10月11日(日)
「第18回ドナーファミリーの集い[®]
「ラン・フォー・ビジョン」日程決定



graphic designed by tokyodesignroom.com



御挨拶

大会委員長
東京歯科大学
市川総合病院
角膜センター長
島崎 潤

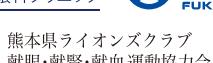
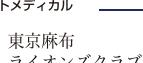
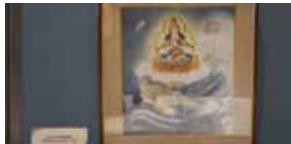
今年のドナーファミリーの集い® およびラン・フォー・ビジョン®は、おりしも日本列島を直撃した台風19号の影響を受けた10月13日に行われました。数日前から天気が懸念され、「どういう状況になったら中止を決めて、それをいつどうやって知らせようか?」などの打ち合わせが事前に行われました。結果として、いずれの催しも大過なく開催することができ、主催側として大きく安堵致しました。

午前中のドナーファミリーの集い®には、151名の皆さんにご参加いただきました。ドナーファミリー、レシピエント、ライオンズクラブを始めとする支援者の方々、そして医療関係者が一同に集まるこの会は、毎年参加する毎に自分達が行っている医療の本質を思い出させてくれます。今年の目玉の一つは、慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室の三村將教授にご参加いただいて「ドナーファミリーの心の変化とグリーフケア」のシンポジウムが開かれたことです。愛するご家族の死に際して、献眼をご決断いただいたドナーファミリーの心情、その後のお気持ちの変化についてはこれまでにも時に語られることはありましたが、今回この問題に正面から取り組んだことは画期的であったと思います。三村先生が、生体肝移植を例にとって多数例での調査結果を紹介されるとともに、ドナーファミリーの声に直接答えてくださったことは、私を含め多くの参加者に感動をもたらしました。

午後は、さらに風雨が強まる中でラン・フォー・ビジョン®が開催されました。時折雨足が強まるものの、基本的には小雨のコンディションが維持され、強風にあおられたりすることもなく、怪我人を出さずに開催出来たことは幸運でした。悪コンディションの中でも、下は2歳の男の子(特別賞のグアム往復航空券もゲット)から上は78歳まで、視覚障害者も含め171名が皇居を走り抜けてくださいました。初めての天候アクシデントの中での開催は、今後の会の運営においても大きな財産となると思われます。毎年のこととなりますが、ご協力いただいた東京視覚障害者ランニングクラブ、関東学生競技連盟、国士館ウェルネスリサーチセンター、そしてボランティアの方々に厚く御礼を申し上げます。

作品展

ドナーファミリーの集い®会場入口のホワイエにて、移植を受けられた患者様からお預かりした作品を展示しました。患者さまが光を取り戻され、生き生きと過ごされているご様子がわかり、その作品に込められた感謝の気持ちも皆様に伝わったことだと思います。その他に、角膜センター・アイバンクの紹介パネルを展示させていただきました。



ドナーファミリーの集い®

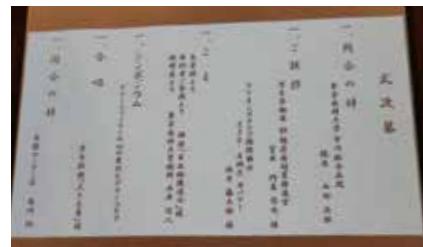
ドナーファミリーの集い®では、ドナーの皆様のご冥福をお祈りし、ドナーファミリーの方々の温く、そして勇気ある決断に、様々な形で感謝の気持ちをお伝えしました。移植患者様の「会って直接お礼が言いたい」という言葉から始まったこの集いの趣旨に沿えるよう、今回も昨年と同様に円卓をご用意させていただきました。ドナーファミリーの方々と移植患者様のみならず、両者をつなぐ医療従事者そして私どもの活動をサポートしてくださっているライオンズクラブや企業の方々が各テーブルで歓談しておられ、とても温かな会となりました。

会の前半では、当院病院長西田次郎の開式の辞、黙祷から始まり、ドナーファミリーからの故人への思いや現在のお気持ち、また移植患者様からの移植に対する思いや移植後のご様子などを、お手紙の朗読やお話し、ビデオレターなどで紹介しました。また、当院眼科石居信人医師からは、両者をつなぐ移植医の立場からの話があり、それぞれの立場での思いを共有できる場となりました。貴重なお写真やお手紙、メッセージをご提供いただきました皆様に心より感謝申し上げます。

後半は、「ドナーファミリーの心の変化とグリーフケア」と題し、シンポジウムを開催させて頂きました。慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室三村将教授、慶應義塾大学医学部眼科学教室坪田一男教授に加え、今年は、実際の提供者の声をより多く伝えられるよう、お二人のドナーファミリーにご登壇いただき、それぞれのご家族のエピソードを織り交ぜながら、ご家族のお気持ちの変化やコーディネーターの関わり方について議論を進めました。坪田先生からは移植医のお立場から、三村先生からはご家族の心の動きについて精神・神経科学の専門的なお立場とご経験からご意見やご助言をいただき、ご家族それぞれに揺れ動くお気持ちや心の変化があり、必ずしも同じではない心の動きを共有できる場となりました。また、提供や移植を機に、コーディネーターと関わりを持った参加者の皆様に、私どもコーディネーターという仕事についても、より知つて頂ける機会となりました。シンポジウムにご協力頂きました皆様にも心より感謝申し上げます。

最後に児童劇団「大きな夢」の子供たちから、優しい歌声が贈されました。代表の青砥洋先生をはじめ、児童劇団「大きな夢」の関係者の皆様には、会の趣旨に賛同いただき、毎年たくさんの中学生たちにご協力いただいています。

子供たちの響く歌声♪「ぼくの心もありがとう」が参加者の心をつなぎ、閉会を迎えました。



司会
フジテレビ
放送文化推進局
CSR推進室部長
木幡 美子 様



東京歯科大学
市川総合病院
病院長
西田 次郎



厚生労働省
健康局
疾病対策課
移植医療
対策推進室長
阿萬 哲也 様



ライオンズクラブ
国際協会330-A
地区ガバナー
塩月 藤太郎 様



東京歯科大学
市川総合病院
眼科
石居 信人



ドナーファミリー
抜井 昭子 様



「こえ」朗読
日本俳優連合
多岐川 まり子 様



慶應義塾大学
眼科学教室
坪田一男 教授

慶應義塾大学
精神・神経科学教室
三村 将 教授

ドナーファミリー
佐藤 淑子 様

ドナーファミリー
名倉 恵子 様

移植コーディネーター
佐々木 千秋

「ぼくの心もありがとう」作詞
名倉 真悟 様



【協賛】 アコムレンタル株式会社

アステラス製薬株式会社

MSD株式会社

医療法人仁和会 熊本眼科医院

大塚製薬株式会社

株式会社アールテック・ウエノ

株式会社エスアールエル

株式会社オグラ

株式会社スギヤマゲン

株式会社日本アルトマーク

株式会社日本テレスoft

株式会社モリア・ジャパン

株式会社メディカル葵出版

興和株式会社

コカ・コーラライーストジャパン株式会社

千寿製薬株式会社

日本アルコン株式会社

HOYA株式会社

理科研株式会社

ロート製薬株式会社

株式会社アイタック一級建築士事務所

株式会社コナーン・メディカル

株式会社日本ルミナス

株式会社フォーシーズ

行徳ライオンズクラブ

わかもと製薬株式会社

株式会社薬研社

ラン・フォー・ビジョン®



午後は、ドナーファミリーの集い®が行われた会場から、隣接する日比谷公園に会場を移し、ラン・フォー・ビジョン®の開幕です。

台風接近にともなうあいにくの小雨模様の中、健康広場での開会式後、参加者はスタート/ゴール地点となる桜田門広場へ移動し、14:30、ライオンズクラブ国際協会330-A地区ガバナー塩月藤太郎様によるスタート合図とともに、14名の視覚障害ランナーを含む総勢約170名のランナーが皇居周回コースをそれぞれのペースで完走しました。

雨脚が強まる中の閉会式では、各コースの上位入賞者の表彰と、最年少・最年長ランナーの表彰、協賛企業からご提供いただいた賞品が当たる抽選会があり、健康広場は温かい拍手と歓声につつまれました。

本大会はチャリティーマラソンですので、みなさまからいただきましたご寄付は主催・共催を合わせた12のアイバンク及び組織バンクの活動推進のために役立させていただきます。また、本大会の趣旨にご賛同いただき、早朝から、雨中にもかかわらず開催のサポートをして下さいました協賛企業はじめ100名を超えるボランティアスタッフのみなさま、ランナーのみなさまに心より御礼を申し上げますとともに、これからも一人でも多くの角膜移植を待つ方に光をお届けできるように一層努力して参ります。

関東学生 陸上競技連盟



当大会では、関東学生陸上競技連盟に所属し、毎年、お正月に行われる「東京箱根間往復大学駅伝」に出場する各大学より選抜された選手達に、視覚障害者ランナーの伴走をお願いしています。

今年は日本体育大学の選手5名が、視覚障害者ランナーと一緒に走りました。選手達は、「大変良い経験ができ、非常に楽しかった」と、会場を若さあふれる清々しい笑顔で盛り上げてくれました

東京視覚障害者 ランニングクラブ



なかなか運動の機会に恵まれず、健康維持増進が難しい視覚障害者達が、身体を動かし、汗を流すことの楽しさを分かち合い運動すること目的とし、平成2年、『視覚障害者健康マラソン東京大会』の開催を機に発足されました。そのクラブのメンバー達が、当大会の第1回目より、走路監察を中心に視覚障害者のサポート、競技全般の誘導を行ってくださっています。今年も43名のメンバーが安全面の強化に努めてくださいました。

メディカルサポート 体制について



本大会では、毎年、国士館大学ウェルネスリサーチセンターの「モバイルAED隊」の方々による沿道救護をお願いしており、今年は救急救命士10名により編成されました。この「モバイルAED隊」は、東京マラソンでも第1回大会からサポートしている実績があります。

また、大会本部の日比谷公園健康広場では、東京歯科大学市川総合病院の看護師3名が救護テントでのサポートにあたってくださいました。

メディカルサポートの方々のご協力により、ランナーのみなさまがケガ人もなく、安心して走りきることができました。

【共催】 慶應義塾大学病院眼球銀行 東京大学医学部附属病院 組織バンク (公財)熊本県移植医療推進財団 (財)北海道アイバンク (公財)静岡県アイバンク (公財)山形県アイバンク (公財)福井県アイバンク (公財)兵庫アイバンク 読売アイバンク (一社)日本スキンバンクネットワーク 杏林アイバンク

【後援】 厚生労働省 日本角膜学会 東京視覚障害者ランニングクラブ 市川パインツリーライオンズクラブ 東京麻布ライオンズクラブ 行徳ライオンズクラブ (福)日本点字図書館 (一社)日本抗加齢医学会 (一社)日本再生医療学会 (公社)日本臓器移植ネットワーク (公財)日本テレビ小鳩文化事業団 (公社)東京都眼科医会、(福)日本点字図書館

【協力】 関東学生陸上競技連盟 児童劇団「大きな夢」 (協)日本俳優連合 NPO日本盲人マラソン協会 国士館大学ウェルネスリサーチセンター